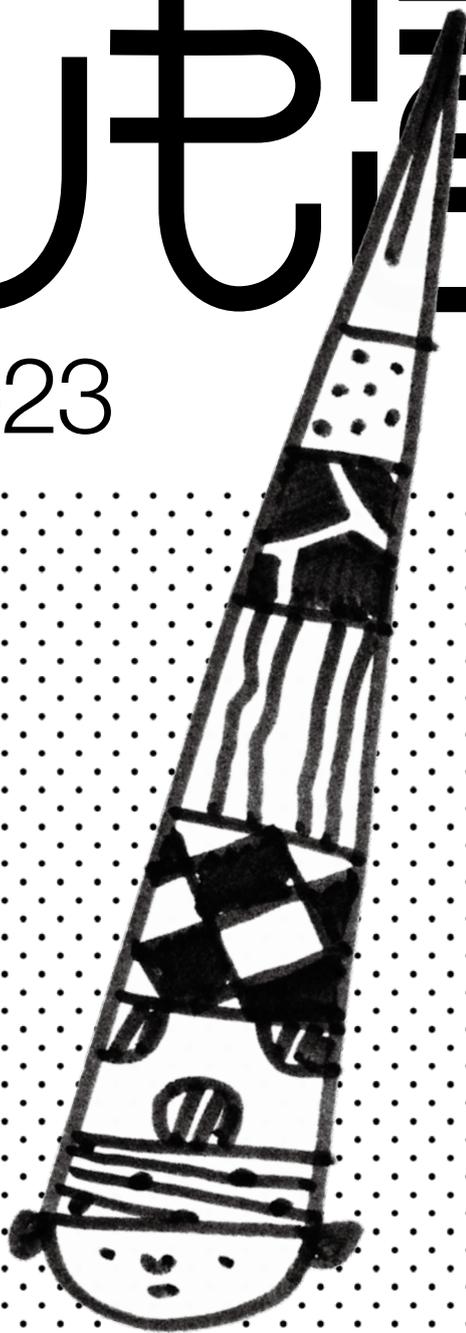


SINCE 2005

Vol.224
monthly issue

かほも通信

December 2023



特集 第3回安城市新美南吉絵本大賞

絵本のできるまで / 絵本作家: 本間希代子

絵本のできりもまで

三十歳を過ぎた頃から絵本作りに挑戦し始め、子どもが生まれてからはますます興味が増したという本間さん。今回、第三回安城市新美南吉絵本大賞で大賞を受賞し、作品が絵本として出版されました。ということで、さっそく彼女の作業現場にお邪魔し、絵本がどのように作られていくのかを受賞作と手直しした出版作品とを見比べながら、話を聞きました。

絵本作家 本間希代子
インタビュアー 秦雅文



テーマを「ひとつの火」にしたのは

新美南吉の十作品くらいの中から選びなさいという課題で、ページ数も三種くらいあつて選ぶという形でした。

安城市は大賞を取った作品をブックファースト(生まれてくる赤ちゃんにプレゼントする本)にする事が決まっていたので、「ひとつの火」というのはちょっと文学的要素の強い話だから悩んだんだけど、全部読んでみた中でこの話が一番気になったので決めました。

その時点ですでに絵は浮かんでたの

いや、その時は文章が気になったということとです。自分のつけた火が繋がっていった大人になった時にあの時の火がまだ残っているかもと空想するんだけど、そのつながっていく時間の壮大な感じが気になったので、それを描こうと思いました。

絵が生まれてくるのは、どの段階?

まずページ数とか関係なく、蠟燭を見ている坊やとか、気になるシーンのイメージを描いていって、十四見開きだったので、色々なダミーを描いてみては消すというのを繰り返しながら、一冊本を作っちゃってから本番の絵を描きました。

文章の入り方は決まっていたの?

それは決まっていなくて、自分で決めます。同じ話で応募していた他の人ももっとページ数を少なくしている人もいました。私は今まで勉強している時も十五見開き位でやっていたので、そうしたんです。

ルールのようなものはあるのですか

坊やが主役なのは決まっているけど、それが何歳なのかとか家族構成とか、山の麓の村とあるけど、どのくらいの山なのかとか、牛飼いの人が提灯に火をつけて行くのだけ、その人はこの家からどのくらい山を超えていくのかとか。そういうのがある程度考えて想定しておきます。

ページをめくっていく方向に時間が進んでいくという暗黙のルールがあるので、そこそここの家のこちらからこちらへ向かってとかっていう細かい設定が出てくるのでそれを色々考えてやりました。

見えないところまで構成するんですね

一番ラストのページは、そこだけ時間軸が子どもの時の思った事じゃなくて、大人になってから思う事になっているので、それをどういふふうに表示すればいいか最後まで悩んで、最後まで確信が持てないまま応募したんです。

応募の時に、そういうことは色々あったつもりでしたが、大賞をもらった後に、だいぶ設定し直すことになりました。

大賞を取った時の作品と、最終的に絵本になったものを興味深く見比べさせてもらいました

賞をとってからは編集者さんの家に原画も持っていて、この話をどのように解釈し

ているのかをお互いに確認する作業をしました。このページでこういう事を描いたらいいんじゃないかというのを話す中で、こうしろというんじゃないかと、作家が閃いて提案してきたらそれを採用するという感じでした。

私は坊やが生まれて初めて火をつける時のマチに対する緊張や恐怖を描けてこそ、その後の回想に続いていくと思ったので火をつけるまでにページ数を使いました。作家によっては模型を作ってから書くという人もいると聞いたので、私も山の模型を作ったりもしたんですよ。

牛を連れて男が提灯を買いに来るところでは最初手前に大きく牛を描いていて、牛はいい感じに描けていましたが、そこで重要なのは男の子がなんだろうと思うことなので、最終的に牛は反対側にいるように変更することにしました。

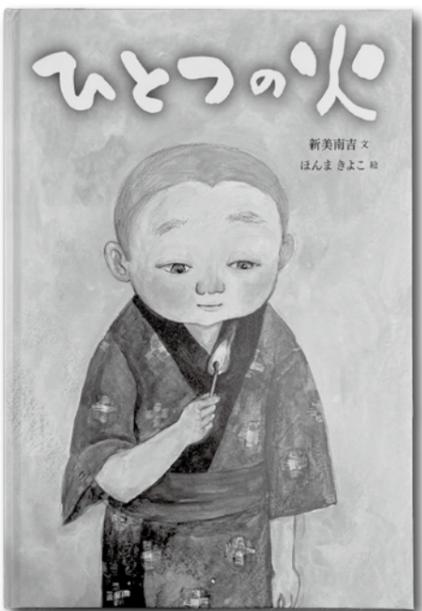
読者を誘導する演出ですね

窓から外を眺めているシーンでは、坊やの顔が最初は横顔でしたが、出来上がった本では後ろ姿になりました。これも顔を描いちゃうと、この坊やを見て、読者が第三者になっちゃってしまうんです。でも背中越しだと、この子に読者が自分を投影して自分が体験しているように思える。読者は側からみているだけじゃなく、ドキドキしたいし、感覚を共有したいんですよ。

そんなわけで後ろ姿に変更したんですけど、つい普段の癖で描く時に顔で語りたくなってしまうんです。そこは絵本と普段の絵を描くのと違うところですよ。

次のページには左上にフクロウがいて、元々は正面を向いてたんです。正面でもいいんですが、結果的には右下の旅人を見ている絵に変えることにしました。

これも読者がフクロウになって、フクロウの視線を追うと、その先に重要なシーンがあるというふうにしたからなんです。



そのページで言わなきゃいけないことがちゃんと描かれているかが重要なんですね

旅人が坊やに火をつけてというシーンでは、最初はそこにお父さんがいなかったんだけど、できあがった本ではお父さんが微妙にいます。この場面も、どうして旅人はお父さんじゃなくて坊やに火をつけてと言ったかなんですけど、たぶんお父さんは会計をしていたので、近くにいた坊やに火をつけてと言ったと思うんです。それならお父さんが描かれていないとそれがわからないということを追加することにしました。

絵本っていつのは、子どもはわからない

とを親に聞くんですよ。「どうしてお父さんに頼まないの?」って聞く子がいた時に、ちゃんと答えがあることが重要なんです。マツヤや提灯を見たことがない子は、絵本を見て初めてそれを知るので、その子が初めて出会うものを描いていると思うといい加減には書けないなあと思います。

なんとなく加子母の雰囲気を感じる

そう、話の舞台は私の中で加子母になってます。この日は大正十五年の九月二十二日と決めて、その日はスーパームーンの満月なんです。

新美南吉がこれを書いた頃にも近いので、しかもこの年は、今は亡き加子母歌舞伎の大先輩の生まれた年なんです。私の中であの方はきつと聡明な子どもだっただろうなというイメージがあつて、坊やが見つめる顔を描く時に、顔の形は違うんだけど、そのイメージを重ねているんです。

坊やの目に大先輩を感じます!

他にも加子母が出てくるのかな
最初のページの鳥瞰図では、以前に「ふぶしの会」で昔の加子母はどうだったかを聞いて冊子にした資料があつて、家のうしろに何が生えてたとか、柴山には松があつたとか

を絵に織り込んでみました。加子母にいるからハザ掛けとかクレ板葺きの屋根根とかが身近にあるから違和感なく描ける。ちなみに出てくる犬は近所のマルちゃんだしね。

大きく手を加えてないけれどレイアウトが変わっているページもありますね

ノドと言うページの真ん中で折れる部分に、思った以上に絵が吸い込まれちゃうんです。描いている時は真つ平な状態で描いているので想像し難いのですが、旅人が村人と出会うシーンがありますが、旅人と最初の村人の間を絵では離して描いてはいるんですけど、本になるとノドのせいで見た目が思ったより近くなってしまうんです。これならもっと旅人を左にしておけばよかったと思うくらいです。

最後のページだけは雰囲気が変わる

そこは最後までどうしたらいいか迷いました。そこだけは時間軸が違うから全然違う描き方をしてもいいんじゃないかっていうのもあつて。最後は心が暖かくなるような終わり方になるように持っていきたかったので、明るくしたいと思ってはいました。

これは本当に悩んでいて、あの頃は毎日上区の公園で子供と二人で二時間くらい「ラン」に乗って、暮れゆく空を見ながらどうしたものかと思つていたり、ちようちよここに「やまぼつし」が満開に咲いていて、これだ!と思つて描きました。

絵本「ひとつの火」は、ノバキトテラス、木と器で、にて販売中です。

わが家のPet!



万賀 古田もなかちゃん、ここなちゃん、みくちゃん 3~4才 #39

わたしたちは、万賀の喫茶店みるきー&まろんのうちの子なんだ。
わたしたちは、食べることが大好きで、ごはんよりもおやつが大好き。写真の1番左は「もなか」真ん中が「ここな」1番右が「みく」だよ。もなかちゃんは、生まれてすぐにお母さん犬に尻尾を噛まれてしまい、尻尾が失くなってしまったよ。でも今は元気いっぱいだよ。みんなで仲良く暮らしているよ。 りえ



コウノトリ

	2022年度		2023年度	
	男	女	男	女
4月	0	1	0	0
5月	1	0	1	0
6月	1	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	1	0	1	0
9月	0	0	0	0
10月	2	0	0	0
11月	0	0		
12月	0	0		
1月	2	0		
2月	1	0		
3月	0	0		
計	8	1	2	0

(令和5年10月15日現在)

かしも通信文芸

俳句 抱きし児の瞳のさくトンプボ追う
 俳句 泣寝入りトンプボに糸をつけしまま
 俳句 餌を追いトンプボ大きく宙返り

三浦一醉
 一之瀬北老
 細川美峰

わたしもかしも vol.87



かしも紀行 里山スケッチ

庭の片付け

今年の夏は異常とも思える程暑かった。庭の草を取る気にもならず放置してしまった。伸び放題になった草は絡みつき、膝丈以上に盛りあがった。少し秋めいてきて、庭に目をやる。知らない内に、植えた覚えのない植物が大きくなっている。その木の葉に私の体が少し当たった。爽やかな香りがする。葉をちぎって匂いを嗅いでみた。いい香りだ。多分リョウブ。白い花が房状に咲く。大事にしよう。工場の奥のサッシに絡んだ草を取り除くと、金色に輝く点点が見えた。虫のサナギ?見たこともないサナギだ。エイリアン?体の上の点点が、電気を付けたように光って見えた。恐る恐るさわってみる。動かない。なにかのサナギであることは間違いない。後日、虫に詳しいAさんに聞いたら、ツマグロヒョウモンというチョウのサナギということが解る。オレンジ色をした、羽の端が黒く、豹の文様をしたチョウが、つい最近までよく飛んでいた。そのサナギだ。草むらの奥にはコンモリと黒い塊が。たぶん、狸のフンだ。それはいまだに、ここに来てフンをするようで、新しい、ツヤツヤのフンが積み上がっている。なんとかせねば。庭の草を片付けながら、思わぬ発見の連続に、手が止まる。



熊と犬

11月13日(月)の朝、唐塩山の頂上が白く見えた。初雪だ。先週末までは日本列島のどこかで真夏日だと言い、最終真夏日の新記録だと騒いでいた。それが、今週は雪のニュースだ。夏から一気に冬になってしまった。天候のせいではないだろうが、最近日本中で熊出没のニュースが多い。ブナの実の不作が原因らしい。幸いな事に加子母の熊は例年並の出没回数だそう。熊も暑い夏をやっと乗り切って、冬ごりの準備をしようとしたら、食べる物が無いのだから困っているのだろう。しかし、地球の覇者である人間を襲うと、手痛いしっぺ返しをくう。何とか早く冬眠してもらって、来年の春からは人類と平和共存してほしいものだ。熊が冬眠するという事は寒さに弱いのだろう。しかし、寒さを喜ぶ動物もいる。犬だ。歌にまで歌われている。「雪やコンコ、あられやコンコ、降っても降ってもまだ降りやまず、犬は喜び庭駆け回り、猫はコタツで丸くなる〜」犬だって寒いだろうと思う。この歌のお陰で日本の犬は、寒さを喜ぶ動物のように思われて、迷惑しているに違いない。 中切治

かしもっ子タイムズ

加子母歌舞伎良かった!~作品深読み考察~

10月29日(日)加子母明治座で行われた歌舞伎に行ってきた。演技も美術も休憩で食べる寿司もどれも最高だった。唯一お酒だけ手元になかったので次回は持っていこうとおもう。

さて、芝居の中から『俊寛(しゅんかん)』について私見を述べてみたいと思う。5年前パリでも講演された本作は、平安末期、島流しにされた3人に釈免状が届くが、主人公俊寛の名前はなかった。という平家物語の話に、江戸時代の天才作家、近松門左衛門が「千鳥」という女性キャラクターを加え、作品に擬似家族性と、俊寛による自己犠牲のストーリーを追加した傑作である。ではなぜ近松は話を追加し、改変したのか。それはズバリ作品を通して江戸時代の儒教・朱子学的思想である『親孝行』を伝えたかったのではないかと。足腰が弱く、よろめきながらも自分が島に残る決断をする俊寛の父性と自己犠牲の精神。俊寛が岩をよじ登り、松の枝を折って落ちそうになりながら遠ざかる船を呼び続ける姿。船からかけ寄ってより添いたくとも俊寛は遥か遠く彼方。当時大衆娯楽として芝居を見に来た人々の中で、俊寛を見て両親を思い出さない者はいなかったのではないかと。多様性が重視される現代。親子のあり方も様々である。そんな時代だからこそ、芝居をヒントに親子の関係を考えてみるチャンスなのかも知れない。最後になるがこの芝居は全5編を見ると我々が文覚上人が登場する場面もある。平家や鎌倉の伝説が今も生きる加子母で、その子孫たちが演じる地歌舞伎を見ることが出来るのは何にも変え難い体験ではないだろうか。さあ皆さま、次の公演は是非とも加子母歌舞伎を観に参りましょう。その際は涙を拭う手ぬぐいと、舞台に花添えるおひねりをお忘れなく。

編集後記

編集長/秦雅文

特集で本間希代子の絵本作りに注目した。大賞を受賞したと聞き、話を聞こうと思ったが、本が発行されてからにしてもらえないかという事だった。そして今回いよいよ取材することになった。絵本作りについて色々興味深い話を聞くことができた。詳しくは特集の通りなのだが、彼女の制作の基本を支えているのは日々のスケッチやイラストなんだろうと思う。多分彼女は普段からかなりの数の絵を描いていると思う。同じく作品を作る者として気になっていた。自分はスケッチやデッサンというのを長い間ほとんどしていなかった。描けるだろうと思っているだけで、描いていないことが悔しかった。そこで数年前から毎日とは行かないもののスケッチブックやクローキータンにどんどん描くようになった。どうにもうまく描けない日があったり、今日は手が動くぞという日があったりする。いいと思ったものも、日を置いて見てみるとそうでもなかったり、ダメだと思って、すったもんだした作品を後から見ると結構面白かったりする。自分で描いたものでも何冊か溜まってくると、自分の糧になる。描いている時はいつも自分だけの時間が流れている。

小郷 けいちゃんの こざと

お持ち帰りも好評です!

Tel: 79-3618
(サブロクジュウハチ)
定休日 月・火曜日



ニワデン

(一財) 岐阜県消防設備協会 会員

● 消火器の点検、販売、廃棄処分ご相談ください。
● 悪質な消火器の訪問販売にご注意を!

Tel. 79-2285



かしも通信
2023年11月22日発行 No.224

Publisher Hara Yuumi
Editor in Chief Hata Masafumi
Deputy Editor Honma Kiyoko
Editors Tanaka Hiroko
Sato Yoko
Sano Tomoya
Fukui Yayoi
Susaki Yusa
Fukui Rie
Taguchi Sachiko
Niwa Junichi
Correspondent Zenda Nao
Illustrator Honma Kiyoko

かしも食堂

昔から伝わる絶品料理を紹介!
食には文化があらわれる。

エビドリア

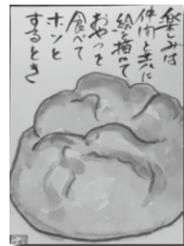
毎月東京の赤羽会館へ絵手紙の勉強に行っている。赤羽会館一階喫茶店のよはやり美味しい。特にエビドリアがおいしく、観察が始まった。手作りで、薄い皿に作り置きが見える冷蔵庫に入っている。注文があるとチーズをのせて焼いてくれる。エビがプリプリで美味しい。私の探究心に火が付き、作って作って!!
冷凍していたご飯を利用して単品でいただけるので便利で絶品。時々作ってみたらどうかしら

- 材料** 3皿分
冷凍エビ 6匹
玉ねぎ 1個
シメジ 1/2袋
オリーブ油大さじ2
米粉 大さじ2
豆乳 200ミリ
チーズ
グリーンピース
塩、コショウ

- 作り方**
1. 玉ねぎを半月切りにする。
 2. オリーブ油で玉ねぎを炒める。しんなりしたら、米粉を入れ豆乳を入れて柔らかいホワイトソースを作る。
 3. 塩、コショウで味を整える。ご飯、シメジ、エビを入れてさっと混ぜる。
 4. 薄い耐熱皿に③を入れてチーズ、グリーンピースを飾る。
 5. オーブントースターでチーズが焼けたら出来上がり。

- ポイント**
- ★コンソメ、バター、牛乳を使うと一段と美味しい。
 - ★冷凍庫に有るもの利用すると楽しい。
 - ★豆乳の200ccパックを常備していると便利。

絵手紙: 加子母公民館絵手紙教室協力
加子母の美味しい料理や昔の料理など教えてください。
福井三月 ☎ 0573-79-2627



かしもっ子だよ全員集合!



中 自立するための学び



小 校外で学ぶ～生活科・社会科見学～



乙 11月10日 ～2歳児七五三交流会～

中 学校 ▶ 10月24、25日の2日間、2年生は職場体験学習をしました。小売店、飲食業、プレカット工場、美容関係、食品関係、自動車関係と職種は様々でした。普段の生活とはまるで違う体験に戸惑いの表情を見せながらも、事業所の方々のあたたかい心遣いに支えられ、生き生きと活動していました。体験学習を受け入れてくださった事業所の方々は、口々に「これからの日本を背負っていく生徒達に、自分たちにしか教えられる事を伝えるのは、こちらもうれしいことだ。」と言ってくださり、改めて加子母のあたたかさや地域で子ども達を育てるんだ、という熱さを、ひしひしと感じました。地域の素敵な先生方と過ごす貴重な2日間となりました。(以下、生徒達の感想を抜粋しました)
・お客さんへの対応やお店の業務をこなしていて、心から感謝しました。私も視野を広く持ち、周りの人達を尊重できるように努力します。
・「良いものを届けるにはどんな工夫をしたらいいのかわからない」「誰もが欲しいと思える物を作りたい」という強い思いを持って仕事をしていたので、僕も何事にも思いを持って取り組みたいと思いました。
・最初はなぜ、こんなに大きい声を出すのかと不思議に思っていたのですが、消防士の方から「実際の事故や火事の現場では、自分や仲間の命を守るためにも大きな声を出さないといけない」と聞いてとても納得しました。

小 学校 ▶ 加子母小学校では、学年毎に校外へ出掛けて学ぶ「生活科見学」「社会科見学」を行っています。
1年生は11月9日に「ふれあい牧場」へ行きました。バターづくり体験では、ボトルに入った生クリームを一生懸命に振り、どの子どももバターを完成させました。やぎなどの動物に餌やりをしたり触ったりして、生き物の温かさや大切さを感じました。子供たちは、広い牧場を元気に走り回り、楽しい一日を過ごしました。
2年生は10月18日に「山本農園・こども科学館」へ行きました。山本農園では、りんご狩りをし、大きなりんごを持ち帰りました。試食したりりんごはとでもみずみずしくておいしかったです。こども科学館では、様々な展示物に触れたり実際に体験したりしながら楽しみました。
3年生は10月20日に「中津川警察署・鉱物博物館」へ行きました。警察署では、仕事の様子を聞き、警察手帳や手錠、パトカーなどを見せてもらい大喜びでした。鉱物博物館では、展示してある鉱物を見学したり水晶探しをしたり、楽しみました。
4年生は、11月9日に「セラテクノ土岐・丹山窯・藤山窯・どんぶり会館」へ行きました。美濃焼についての話を聞き、窯元の様子を見学しました。絵付け体験では、自分で選んだ食器に絵を描きました。事前に学習したことと比べながら、見聞きし体験できました。校外での学習は、普段接することのない人との関わり方や公共の場での過ごし方についても考え、貴重な学びの場となっています。

こ ども園 ▶ 10日には、2歳未満就園児向けの「かしもっこ広場」を行いました。お休みのお友だちもいましたが、来年度、加子母こども園へ入園予定の子ども達です。在園児と一緒に七五三をお祝いしました。在園児の子ども達は「どんぐりころころ」「まつぼっくり」の歌を披露しました。晴れていれば隣の水無神社へ赴きお参りを予定でしたが、雨だったのでこども園のホールからみんなで「2礼2拍1礼」をして、神様に元気で過ごせるようお願いをしました。
来年度、年長組になるたんぼ組のお友だちがプレゼントを作ったので、2歳児のお友だちに手渡しました。プレゼントをもらった子ども達も笑顔でとても嬉しそうでした。最後に並んで記念写真を撮りました。みんな元気で大きくなってね。

乳幼児 ▶ 加子母・付知子育て支援センターくるりんば感染症拡大防止対応の「くるりんば開放日」を設けています。



12月の行事予定	
1	金 【こども園】避難訓練 【小学校】6年生社会科見学 【中学校】あいさつ運動 【中学校】3年生進路懇談会
2	土
3	日
4	月 【こども園】身体測定 【小学校】家庭学習がんばり週間(～8日)
5	火 人権相談(13～15)
6	水
7	木 2歳児相談(受付時間は個別で案内します～付知会場) 【こども園】市川あつきさんによる読み聞かせ
8	金 【中学校】後期中間テスト
9	土
10	日 大型・有害ごみ(9～13)
11	月 学校運営協議会(19～)
12	火 1歳6か月児健診(午後～福岡会場) 【小学校】中津川市特別支援学級交流会(Web) 【中学校】1年生すご技プロジェクト
13	水 【中学校】加子母ロードレース
14	木 【こども園】誕生会
15	金
16	土 【小・中学校】PTA教育講演会(午後～明治座)
17	日 不燃・硬質・資源ごみ(16～17)
18	月 【小・中学校】振替休業日
19	火 行政相談(13:30～15:30) 【こども園】門松立て
20	水 農事改良組合長会(19:30～) 3か月児健診(午後～福岡会場) 【こども園】クリスマス会
21	木 区長会(14:30～) 【小学校】5年生すご技プロジェクト
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火 【こども園】終業式 【小学校】冬休み前集会 【中学校】冬休み前集会
27	水 【こども園】1号認定幼稚園コース冬休み 【小・中学校】冬季休業日(～1月7日)
28	木 【小・中学校】学校閉庁(～1月4日)
29	金 総合事務所閉庁(～1月3日) 【こども園】2、3号認定保育コース冬休み
30	土
31	日 越年マラソン(23:55～) ～行政に関する苦情や相談～ 加子母地区12月の行政相談 12月19日(火) 13時30分～15時30分 加子母公民館

こちら総合事務所です

このページでは、加子母総合事務所からみなさんへ、地域に密着した情報をお知らせします。
みなさんの身近な地域情報をお寄せ下さい。(加子母総合事務所:0573-79-2111まで)

12月4日から10日は人権週間です

「誰か」のことじゃない。

いじめや体罰・虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障害等を理由とする偏見や差別、様々な人権問題があとを絶ちません。これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、「誰か」の問題ではなく、自分の問題として捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。人権相談ではさまざまな人権問題について相談を受け付けていますので一人で悩まず、気軽にご相談ください。

12月の人権相談
12月5日(火)
13時～15時
加子母公民館

第50回 越年マラソンに参加しませんか

《日時》 12月31日(日) 午後11時55分

《場所》 加子母総合事務所スタート

除夜の鐘を聞きながら、走り終えた爽快な気分の中、一年の無事と健康を祈り、新年を迎えてみませんか。申し込みは必要ありません。どなたでも参加出来ます。



中津川市長選挙が行われます

《告示》 令和6年1月7日(日)

《期日前》 令和6年1月8日(月)～13日(土) 加子母公民館

《投票日》 令和6年1月14日(日)

大切な権利を無駄にしないよう、皆さん誘い合って投票に出掛けましょう。



図書室だより

【12月おすすめ図書】

■ブロードキャスト (著 湊かなえ)

夫の言動に耐えられなくなった聡美は、子供を連れ実家のある北鎌倉に逃げ帰る。そこで出会ったのは、縁切りで名高い「東衛寺」の娘で弁護士の子の松岡紬。勢い込んで紬に離婚相談をした聡美だったが、思いがけないことを言われ…。

■居場所。ひとりぼっちの自分を好きになる12の「しないこと」 (著 大崎洋)

陸上の夢が潰れた町田圭祐は、同じ中学出身の正也から誘われてなんとなく放送部に入部することに。陸上への未練を感じつつも、その面白さに目覚めていく。果たして圭祐は、新たな「夢」を見つけられるか。心ふるわず学園青春小説。

■はじめてのテント山行 登る&泊まる徹底サポートBOOK (監修 栗山祐哉)

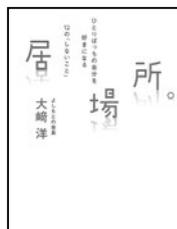
山登りにおける衣食住をすべて持って、外部の力に頼ることなく、自分の力で完結する「テント泊登山」について解説。段階的に難易度を上げながらテント泊登山を楽しむために必要な知識や技術、考え方の一端をまとめる。新版。

■薬屋のひとりごと 13 (著 日向夏)

梨花妃は回復し、玉葉妃の宮でいつもの生活に戻った猫猫。ある日医局にいと、ひどく怯えた宦官が「呪いを解く薬がほしい」とやってくる。宦官の話から彼の言う呪いの正体を見抜き、軟膏を処方する猫猫。すると今度はそれを見た壬氏に呼び出されてしまう。

■おばあちゃんのにわ (文 ドーン・ケイシー 絵 ジェシカ・コートニー・ティックル 訳 横山和江)

しぜんが美しい、おばあちゃんのにわ。「わたし」は、お母さんにとわをおとずれ、生き物や草花を楽しみます。きせつはめぐり、にわはかわっていきます。大きな命のめぐりについて、にわをテーマに感じる絵本。



加子母の人口と世帯数(令和5年11月1日現在) 世帯数:944世帯 男:1,196人 女:1,234人 計:2,430人